

## 6 研究の仮説 —研究の仮説を設定する意義とその立て方—

客観性をもたせ、研究の具体的な見通しを示す。

研究で大切なのは、見通しをもって進めることです。研究の見通しをもつということは、その研究における手立てなどを具体的に設定するということです。研究の仮説を設定する意義をまとめると、次のとおりです。（群馬県教育研究所連盟編著『改訂新版 実践的研究のすすめ方』p.61）

### 〈 研究仮説を設定する意義 〉

- 手立てをどのような場面で、どのように投入することにより、どのような児童生徒の変容を期待するのかを具体化することで、研究の特徴を明確にすることができる。
- 手立てを構想することにより、実践を具体化する方向が明らかにでき、検証するための実践の構想が確かなものとなる。
- 手立てを構想することにより、検証計画の立案において、検証の観点、場面・方法を明確にすることができる。

仮説の書き方は、次の一般的な仮説モデルに当てはめると整理しやすくなります。（福岡県教育研究所連盟編『新訂校内研究のすすめ方』pp.55-60）

### 〈 一般的な仮説モデル 〉

「○○において、○○を○○することによって、○○なるであろう」

①場、内容等

②手立ての工夫

③ねらい、目指す児童生徒像

↑  
研究対象の限定

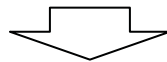
↑  
研究のポイント

↑  
検証方法の確立

その際、手立ての具体化が不十分な仮説は、次の例のように明確化しておく必要があります。

### 〈 不十分な仮説の例 〉

①精選した教材と適切な資料を基に学習過程を工夫し、探究活動を繰り返していけば、②学び取る力が育つであろう。



### 〈 具体化した仮説の例 〉

①学習過程を、②ひとり学習→小集団学習→全体学習→ひとり学習のステップで構成し、特にひとり学習において次の手立てをとれば、③一人一人の児童生徒に応じた学び取る力が育つであろう。

- ・ ②学習課題と資料を中心とした「学習の手引」によって活動させる。
- ・ ②学習計画を立てる段階を重視し、個に応じた計画による自由な探究活動をさせる。

研究仮説を設定する際には、どのような内容を、どの場面で、どのように投入すると、どのような変容が期待できるのかを具体化し、分かりやすく表現することが大切です。

〈参考文献〉 群馬県教育研究所連盟編著『改訂新版 実践的研究のすすめ方』 東洋館出版社 2001  
福岡県教育研究所連盟編『新訂校内研究のすすめ方』 第一法規 1991